

彼は飛行士ですから絶対に切れない電球を要求している所は飛行機の中と一番良いのが飛行場だそうです。飛行場のランウエーの中に色々な電気が数万個点いておりますが、やっぱり毎日最終便が出たあと保守点検、そのことによって年間数千万の電球の交換があるそうです。成田だけでも、かと言って実績がないものですから、それを使用してもらうためには政治的な動きの中で運動して行かなければならないものですから、アメリカ国内のエアポートで現在3ヶ所程実験的に使っているそうです。但し、今、皆様が持っている電球はちょっと輝度が暗い方ですから、現在、相当明るくなっておりエアポートで使用するには差支えない程の明るさまで来ているそうです。私はその様な方々とお付き合いする中で、今井先生ご要望のゴルフ話に入っていくわけですがアメリカ国内広していえども私、キャディーが付いたゴルフ場はたった一ヶ所でございます、あとはセルフカートで回れるわけです。その1ヶ所がニューヨークはロングアイランドと言う所、アングロサクソンがかたまっている町に入る者は我々の許可なくここに住むことを許さないと、つまりユダヤ系の人と黒人、黄色人種いっさいその町に入れないそうです。そして1つのハウスの敷地が最低1万坪からスタートしておりましてニューヨークのマンハッタンを見まして何と場所のないところだと思ひながらフリーウエイを1時間程ロングアイランドへ走りますと何と贅沢なと…「ここからここまで800mが私のプライベートビーチ」とかロックのオニールのおじさんのところへ行きますと「私のプライベートビーチが1kmあります」…と。そんなふざけた世界が実際にあるわけです。

そこへ最初出掛けた時に「じゃ、山口、貴方をホームパーティーに招待しよう…」と言うことで、前日付き人から連絡がありまして、ジャケットを持って行ったのですが「それじゃだめよ。」と言うことでニューヨークの有名なブルックブラザーズの4Fにつれて行かれましてそこでスーツを新調致しましてサイズが合いませんとおおあわてで「明日の夕方まで何とかならんかい。」と言いましたら紹介状を書きましようと言うことで修理専門にやっていたらいます中国の方が数件隣りにおられましてそこに新調スーツを持ち込んで「明日の夕方まで治してよ。」と「判かった。」とそれでプライスは？200ドルでよろしい。ズボンの裾上げをお願いして、次に靴が良くないということで靴屋さんに走りましてイタリアンパリーのバリバリの靴を1足190ドルで買ひまして、次の日、しずしずとロングアイランドへ行かしまして、ホームパーティーも大切であるがここはお茶だけにして、我々はプライベートでゴルフコースとクラブハウスを経営しておりますと言うことでクラブハウスへ出掛けました。そこでは、まず皆様の目がサーと私に集まって何んでイエローモンキーがここに来ているのかと言う顔で私は見られました。「だろうなあ…」と私は感じましたが、その私を見る目が「何んで…」という言と「敵が心」と言いますかそう言う「キー」とした目で見られていましたが周辺に立っている人達は「ロックファミリーか」と「じゃ、しゃーねーなあ」と言うことでスूपその他、おいしいはずがその味が全く判からんうちにそのパーティーは終わりました。それで次の日、ゴルフが始まったわけですが、行きますと、そう言う所にはクラブハウスの前に東南アジアのゴルフ場といっしょでございまして割合ミドルクラスのキャディさんが並ん

ロータリー財団ボックス：

坂本勝司君 米山功労者に登録致します。

梨本清一君 2回目の米山奨学金に挑戦します。まずその第1年目として

イライラボックス： 21日現在累計 2,000円

ロータリー情報ワンポイント・スピーチ： 平松利朗さん

ロータリーの効用

新入会員の方が新しく入会される時、ロータリーに何を期待されるでしょうか。これは新しい出会いを求め、新しい友人を増やすことだと言われます。普通は学校からの友達や仕事の取引先などの付き合い程度ですが、ロータリーに入会すると、

①いろいろな異業種の経営者との出会い交流が生まれる。そして新しい取引相手の可能性も生まれる。また今まで知らなかった「商売のノーハウ」の示唆を得ることも出来る等です。しかし、何にも増して言えることはいろいろなタイプの経営者に身近に接し、何か人間的にキラリと光るもの、個性的な魅力に触れられることです。

②ロータリーのクラブ活動、委員会活動を通し行政や各種団体の責任者担当者と会って話す機会が多くなります。

③「町の著名人」にも親しくお会いしてご指導を受けられる。この方々は仕事の先輩、人生の先輩としてこれまで随分と参考にさせて頂きました。

年令、仕事、立場も異なる人間の中で、自分の足りないところ、気付かなかった面をいろいろと教えられ“自分を見直す良き場”となる—これがロータリーの効用の最たるものだと思います。

卓 話： 「海外よもやま話」 山口龍二さん



どうも今日は。日本人離れした私でございますが今朝ほどさるリース会社の方が来られまして「山口さんてハーフに似ていますね、日系二世」いやそれなら有難いと…。しかし海外の入国審査官にたいがい間違われるのはフィリピン人でございまして、やっぱり白人社会の中で人種偏見は歴然とございます。その中でフィリピン人と言いますと、昔の日本のランクから言いますと三等国扱い、その様な目で見られるのがフィリッピンの人達でありはす。私はフィリッピン人に見られるのは嫌いではありませんが、ことイミグレーションにおいては「ムカッ！」と来ますので私は「ニホンジンだい！」としげしげとパスポート二回三回と…。にらみつけられて「ほんとに日本人かい」…と。いや、間違いない「ほんとうにニホンジンだ」…と。何故なら英語が喋れない。そう言うことで、今日、急きょ山本（充）さんから卓話せよと、それも今井先生から海外のゴルフ関係をまぜたお話をして下さいと言うことでありました。

ゴルフの話ですとゴルフをする人しない人がいらっしやいますので色々取りまぜてお話を致したいと思います。

ここに有名人が写っております写真を持参致しました。順次回ってまいりますと思いますが皆様にお供覧したいと思います。今、アメリカで私が一番親しくしてお付き合いさせて頂いて年に一二度おじゃまするのですが、アメリカ上院議員のロックフェラー四世のこのファミリーと付き合いしております、この1月にも彼は来日致しました。彼が米国大使館から電話をくれました。宇宙飛行士のジョンマックブライト、この方はチャレンジャーが爆発する手前でそのスペースシャトルで帰って来ました。その時の船長でございまして、彼と二人で日本に来まして東京でどうしても会いたいから、出て来いと言うことで東京－ホテルオークラで嫁共ども一日を過ごさせて頂きました。

ロックフェラーとお付き合い出来るようになりましたのは、私の会社「タツミグアム」ここの株主にアメリカ海兵隊の退役大佐がおりまして、彼はずっとアメリカ・ワシントン・ペンタゴン国務省に勤めておりまして、そういう関係で本土に出掛けるようになったらこいつに会え、仕事であったらこいつに会えと言うことで紹介して頂いております。そう言うことで最初にアメリカ本土でお会いしたのがロックフェラー四世でして、私は何時もの通りポロシャツとジーパンとは行きませんがカジュアルパンツと野球帽をかぶって飛行場へ降りましたらTVそれから記者の方々が大勢並んでおりまして「何事かなあ…」と思って、まさか迎える側もカジュアルパンツ、Tシャツに野球帽をかぶって私がロックフェラー四世が迎えに来ているなんて思ってもいませんから飛行場の片隅のベンチに座って待っていましたら、通訳の日商岩井の人が「山さん、大変だぜ…」と。「どうしたい…」。セネターが迎えに来ている…と。その頃私は英語といいますと3つ4つしか知りませんでグットモーニングとグットバイは判りましたんですがその「セネターて何さ」。「あのね、アメリカ国会の上院議員が夫婦で迎えに来ている。それでこれから空港の貴賓室へ行かなければならない。何か喋ってくれ…」と「俺、英語判らないから貴方が喋ってくれ」、「私が喋ると、日商岩井が喋るかっこうになる」と仕方がないから「まあ、いいや」と言うことで貴賓室行きました。

はっきり言いまして、迎えの皆様がたにひんしゅくをかいました。ロックフェラー四世上院議員夫婦が何んでこんな者を迎えに来なくてはならないのかと、そこは気の小さい私でありますので何んとなくその場を取りつくろいました。次の日はニュース、TVに出ましたし、新聞にも出ました。ようするに「ビジネスチャンス」を捜しに来た日本人と言うことで大きく紹介されました。そこで、宇宙飛行士のジョンマックブライト、彼は宇宙飛行士になるためにアメリカ四軍と沿岸警備隊、コースガードと言いますが、五軍から、まず〇年〇月、スペースシャトルを飛ばすから応募して下さいというものが全員に回覧されるわけです。そうしますと1回の応募が15万人だそうです。現役、退役含めて、その中から書類選考で2千人までふるい分けて、最終的に20名前後に絞り込まれるわけですが、彼の経歴を見て行きますと、話は飛びますが、私は大の飛行機気違いでございまして、特にコマーシャルライン、ジャルとかエアーフランスとかああ言う飛行機は好きではありませ

んが、時代、時代の先端を行っている軍艦、戦闘機その他あれが一番私の動悸が胸々する対称物でありまして、やはりアメリカ軍にからんでおりますと、「あの飛行機に乗りたい」、「ちょっと無理ではないか」…。何故なら、「お前耳が悪いから」、「耳は何んとかなる」、それでもだめ、「Gが加わると貴方は絶対平衡感覚が無くなりますよ」と言われることが一つ、それから飛行士に絶対ないのが一つあります。虫歯がありません（歯の神経に気圧の変化で痛みが生ずる）。……今井先生が喜ぶと思いますが……。飛行士になるとき一番初めにやるのが虫歯の治療であります。あれはGが加わったときにどのように作用するのか、その意義は私には判かりませんが、飛行士に虫歯はおられません。それと虫歯と耳、鼓膜が破れていることはいっさいだめですね。減圧とか色々なことを体験させられるわけですから。お前にせいぜい乗せられる飛行機はプロペラかA-10と言うのがございます。地上支援戦闘機でございますが、これは双発でしてプロペラ、ヘリコプターの速度からマッハ1.8まで出せる飛行機ですが、それにどうしても乗りたいから乗せると言うことになり、判かった、私のホームベースがあるウエストバージニアに行きましょうと言うことで、3年前そこへ出掛けて乗せて頂きました。平服で乗せてもらいました。

通常、高高度まで上りますと、飛行服がいるわけですが、私は低い高度で飛行場の回わり一周乗せてもらったのですからそれでもいいやと言うことで、平服で乗せてもらったあの決感、「F1を目いっぱい走らせるとああ言う感じになるのかな」とこう思っておりました。そう言うことで、ジョンマックブライトが海軍テストパイロット、宇宙飛行から帰えて来まして、退職しましたわけですが、その後新らしい会社を自分でお起しまして、ここにサンプルがございます。電球でございます。彼、旦く50年間絶対切れません。最終的には物体が消滅しない限り、地球最後の日まで明りが消えることはない。1尺真四角の広さで、だいたい電気代が3ドル50セント位であろうと言うことで、日本で何んとかならないだろうか、商品化出来ないだろうか、と言う話が5年前にあって、私は当時技術的に取り込むことが出来ませんでしたので、ツインバードのさる方にこれをあげるよと……。ツインバードさんは電気に強いから、ものに出来るのではないかと期待致しましたが、音信不通でございまして、現在に至っておりますが、電球は通常熱をもちます。ところが、24時間、365日、地球バンクの日まで点けていてもいっさいこれは熱をもちません。どう言う原理か、私には判かりませんが、基本的にスペースシャトルは消費電力を最少限、それから輝度をある程度保つ、熱をもってもらっては困ると、パネルを全部みますと、あれが全て電気で点いておりますから、ものすごい熱を発するわけですが、人体から発する水分その他色々弊害が生じますので熱をもたない電球を開発しないかと言うことで出来た電球であるそうです。私も国内で色々商品化しようかなと考えました。例えば表札かなあと考えましたが、日本国内だけの市場ではちょっと不足かなあ…と好き嫌いがありますので、ところが、海外におきましては表札制度はございません。全てのハウスが番号制でございまして…それやこれやでその会社に対して、私も相当、彼に投資をしています。株主として私も彼と付き合いおるわけであります。